EdTech 導入補助金2021

令和2年度3次補正 学びと社会の連携促進事業
（先端的教育用ソフトウェア導入実証事業）費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

ハイラブル株式会社

【ツール名】

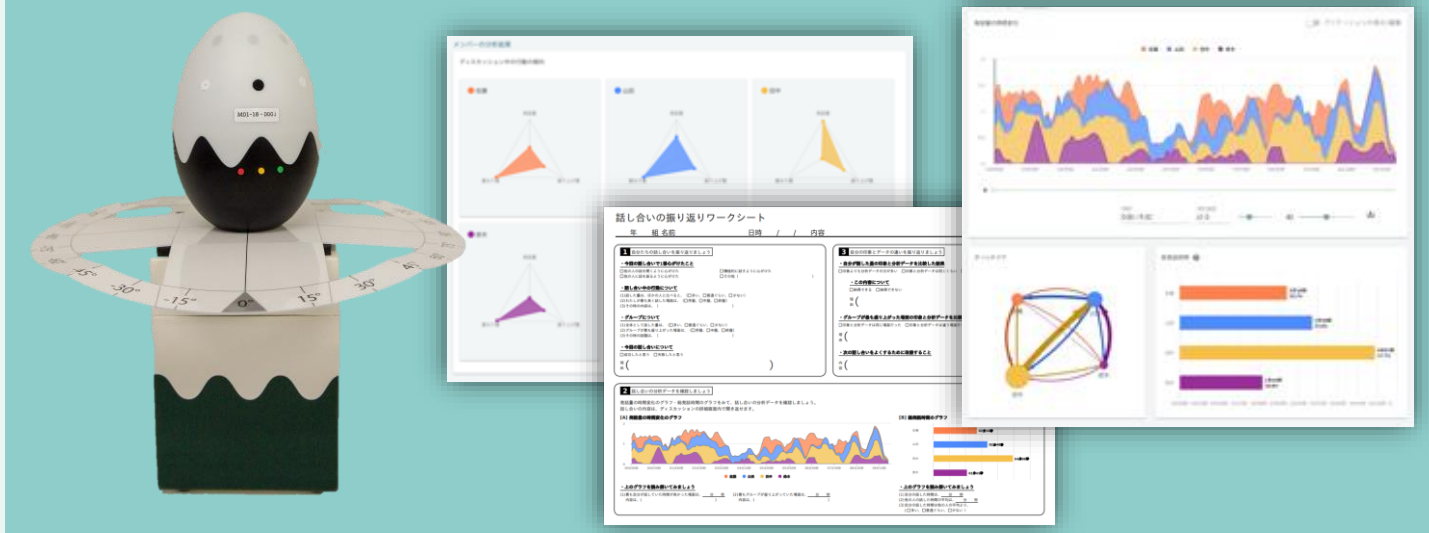
① Hylable Discussion
（ハイラブルディスカッション）

② Hylable（ハイラブル）

【ツールの機能分類】

発展的な学び

2022年2月

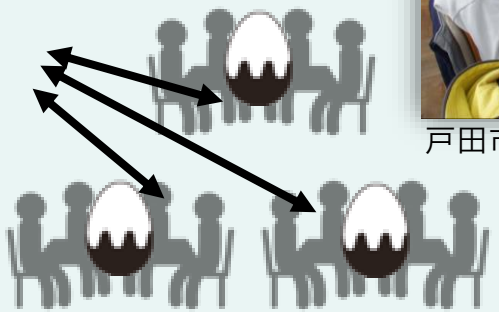


Hylable Discussion 利用中の様子（戸田市立戸田第二小学校）

ツール① 対面の話し合い見える化 Hylable Discussion（ハイラブルディスカッション）

たまご型レコーダーで録音した話し合いを見える化するツール

- 特長1　発話量・やり取りなどが自動でグラフやレポートに。
- 特長2　クラスで一斉に話しても安定の分析。



たまご型
レコーダー

戸田市立戸田南小学校

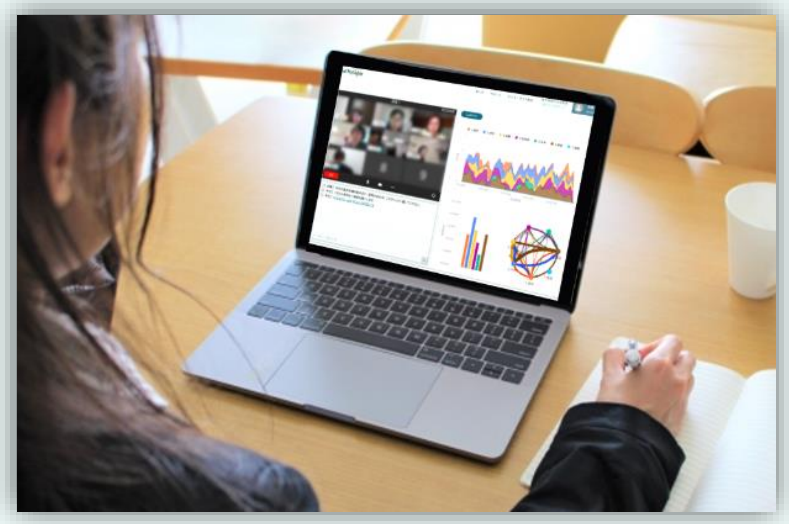
戸田市立戸田東小学校

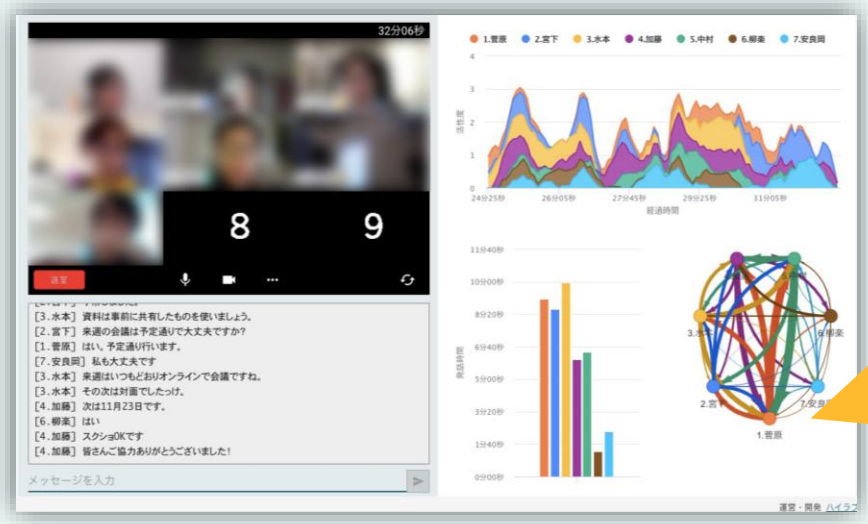
アカデミック価格（レコーダーレンタルおよび分析サービス料）
・レコーダー1台1ヶ月　　2万円
・教育機関向けパッケージ　30万円　※詳しくはお問い合わせください

ツール② Web会議の見える化 Hylable（ハイラブル）

専用Web会議システムでの話し合いをリアルタイムで見える化するツール

- 特長1　リアルタイムで見える化されるので、その場で行動変容できる。
- 特長2　すべてのグループの様子を外からグラフで一覧できる。





第17回（令和2年度）
日本e-Learning大賞
「厚生労働大臣賞」

対面の話し合い（Hylable Discussion）と同じデータが見える化される！

アカデミック価格（Web会議利用および分析サービス料）
・Web会議1ルーム1ヶ月　　5万円
・教育機関向けパッケージ　30万円　※詳しくはお問い合わせください

■ 学校等教育機関の抱える課題

話し合い活動に対して学校が抱える課題

課題①	話し合いは形に残らないため 児童・生徒が自ら振り返ることが難しい
課題②	先生がすべての班を見ることができない
課題③	コロナ禍に対応した学びの保障がしたい

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

利用ツール：対面の話し合い見える化 Hylable Discussion

課題① 話し合いは形に残らないため、児童・生徒が自ら振り返ることが難しい

活用方法 話し合いを自動で見える化し、エビデンスに基づいた振り返りを可能に

東京学芸大学附属小金井中学校（理科）の利用例

	先生（1名）	生徒（2年生）【約4人×9班】
授業開始		理科室据え置きのレコーダーの電源を入れる
話し合い前		専用ウェブサイトにログインし、**前回の話し合いの分析結果を見て、今日の目標を立てる**
話し合い開始	専用ウェブサイトにログインし、PCからレコーダー全台の録音開始	
話し合い中		**実験結果などに関する話し合いが自動で録音・分析される**
話し合い終了	レコーダー全台の録音停止	
授業終了		レコーダーの電源を切る

◆運用のポイント：レコーダーの電源を入れるなどを生徒に任せて、先生は専用ウェブサイトから録音・停止の操作を行うのみで運用。

東京学芸大学附属小金井中学校

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

利用ツール：対面の話し合い見える化 Hylable Discussion

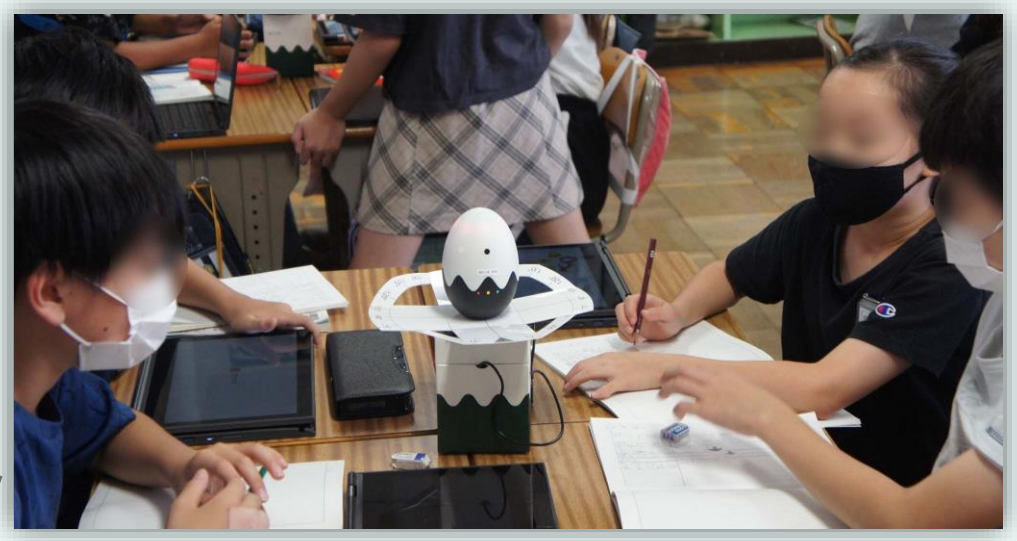
課題② 先生がすべての班を見ることができない

活用方法 話し合いを自動で見える化し、すべての班の記録を可能に

戸田市立戸田第二小学校（国語）の利用例

	先生（1名）	児童（5年生）【約5人×8班】
授業前～授業開始	レコーダーを教室の空き机などへ持ってきて電源を入れる	
話し合い前	各班から児童1名にレコーダーを取りに来てもらう	専用ウェブサイトにログインし、前回の話し合いの分析結果を見て、今日の目標を立てる
話し合い開始	専用ウェブサイトにログインし、PCからレコーダー全台の録音開始	
話し合い中		**単元に基づいた話し合いが自動で録音・分析される**
話し合い終了		自分の班のレコーダーの録音をボタンで停止、電源を切る
授業後	**分析結果を確認。すべての班が自動で分析されている**	

◆運用のポイント：レコーダーを取りに来てもらう、電源を切ってもらうなど、児童にも一部作業を手伝ってもらう方法で運用。



戸田市立戸田第二小学校

Hylable

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

利用ツール：
Web会議の見える化
Hylable

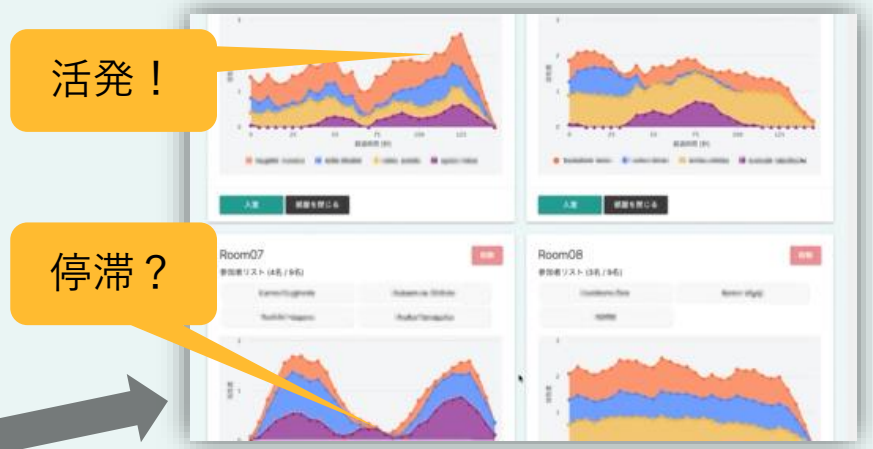
課題③ コロナ禍に対応した学びの保障がしたい

活用方法 Web会議見える化を使い、校内にいながら密を避けた話し合いを実現

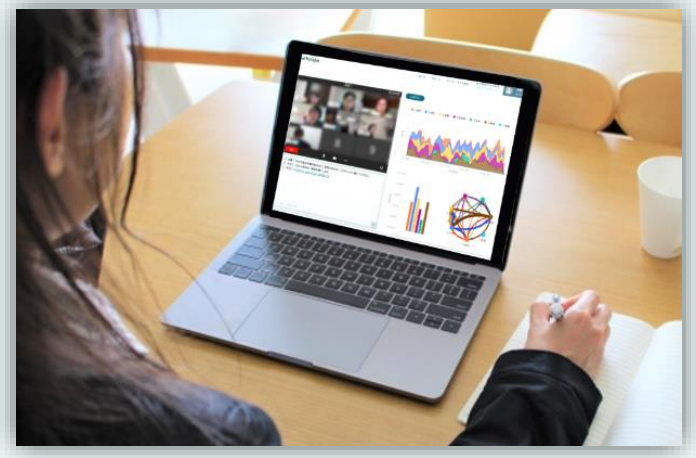
東京学芸大学附属小金井中学校（理科）の利用例

	先生（1名）	生徒（2年生）【約4人×9班】
授業開始	講義などは生徒を集めて理科室で行う	
話し合い前	Web会議入室用のURLを生徒に配布	密を避けるため、クラスの半数は別教室へ移動
話し合い開始		一人1台のiPadで、URLをクリックしてWeb会議へ入室 ※もう1台のタブレットでノート機能を確保
話し合い中	**各Web会議ルームの一覧画面から、話し合いの様子を観察**	Web会議で班ごとに話し合い。**画面上にリアルタイムで話し合いのグラフが表示**される
話し合い/授業終了		各自Web会議を退室して、理科室へ戻る

◆運用のポイント：教室を2つに分け、学校にいながらもオンライン授業のようにWeb会議を活用し、密を避けた話し合いを実現。



Hylable 利用中の先生の画面例



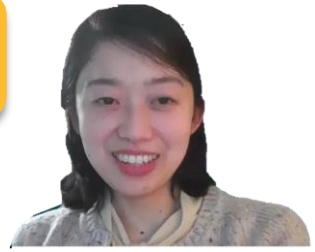
Hylable 利用中の生徒の画面例

■ 補助事業において実施したサポート内容

導入時から、担当者の顔が見えるサポートを実施

- 活用のためのセミナー開催
- 授業に参加して利用サポート
- たまご型レコーダーの初期設定
- 質問や不具合時の対応
- 活用のための情報提供　など

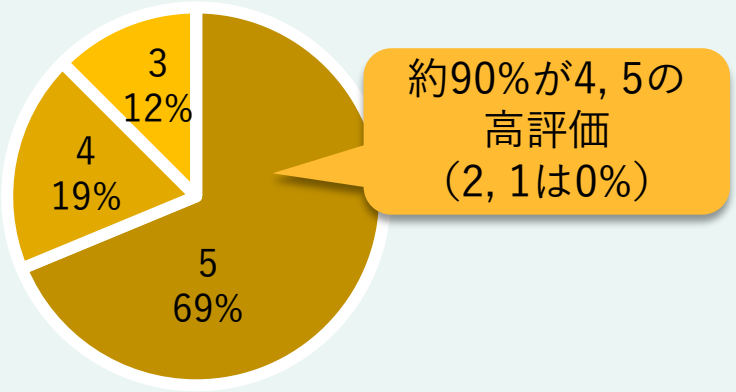
EdTech補助金
向け特別実施



教育事業担当・中村祐希

※その他営業やエンジニア複数体制で
EdTech補助金での導入校向けに対応

ハイラブル株式会社のサポートの印象を5段階で教えてください



EdTech導入補助金2021導入校の先生へのアンケート
※回答者16名（ハイラブル株式会社、2022年）

先生向けセミナー（戸田市立戸田南小学校）

生徒向けセミナー（静岡聖光学院中学校）

オンラインで授業に参加して録音サポート
（北海道教育大学附属旭川中学校）

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

学校等教育機関数　12校

小学校4	■ 戸田市立戸田第二小学校	(埼玉県)
	■ 戸田市立戸田東小学校	(埼玉県)
	■ 戸田市立戸田南小学校	(埼玉県)
	■ 戸田市立美女木小学校	(埼玉県)
中学校6	■ 石川義塾中学校	(福島県)
	■ 三田学園中学校	(兵庫県)
	■ 静岡聖光学院中学校	(静岡県)
	■ 東京学芸大学附属小金井中学校	(東京都)
	■ 戸田市立戸田東中学校	(埼玉県)
	■ 北海道教育大学附属旭川中学校	(北海道)
高校　1	■ 明星高等学校	(大阪府)
高専　1	■ 大阪府立大学工業高等専門学校	(大阪府)

学校等設置者数　5団体

- 戸田市教育委員会
- 学校法人石川義塾
- 学校法人静岡聖光学院
- 国立大学法人北海道教育大学
- 学校法人明星学園

※その他3校は学校長の承認で導入

三田学園中学校

石川義塾中学校

導入全12校での総利用実績

- たまご型レコーダー数　：77台
- Web会議ルーム数　：120室
- 学年：小学校1年（6歳）～高専5年（20歳）
- 科目：国語、社会、理科、音楽、家庭、道徳、英語、総合的な学習の時間、卒業研究、HR、教職員会議
- のべディスカッション数：1,161回
- のべ参加者数（児童・生徒・教職員）：4,232人
- 総録音時間：約306時間

※1回のディスカッション時間：5～45分程度と幅広い

（2022/2/14 時点）

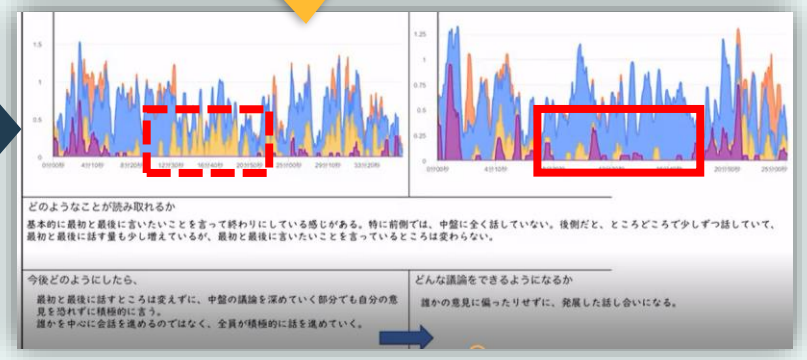
■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

児童・生徒にとっての活用効果　エビデンスに基づいた振り返りで自分の特徴に気づき、自立して目標を立てられるようになった

東京学芸大学附属小金井中学校（理科）の例

複数回のレポートを自分で比較する課題を実施

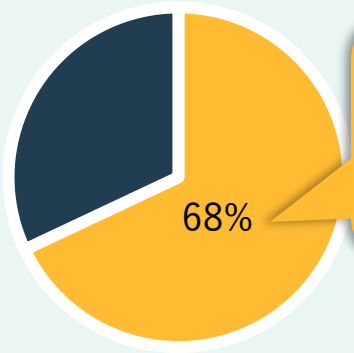
自分のデータを分析し、自立して目標を設定



東京学芸大学附属小金井中学校の生徒の分析結果（2021年）

（今後は）中盤の議論を深めていく部分でも自分の意見を恐れずに積極的に言う。
（生徒の比較レポートより）

ハイラブルの分析結果から、自分について新たに知ったことはありましたか？あった場合それは何ですか（複数回答）



これまで気づかなかった自分の特徴（発話量、行動の傾向など）を新たに知った

EdTech導入補助金2021導入校の生徒へのアンケート
※回答者269名（ハイラブル株式会社、2022年）

自分の改善点を見直し（...）使って数回程で自分の発言量が増えたり、バランスが均等になっていて、コミュニケーションを活発に行うことができていたと実感することができた。
（生徒のアンケート自由回答より）

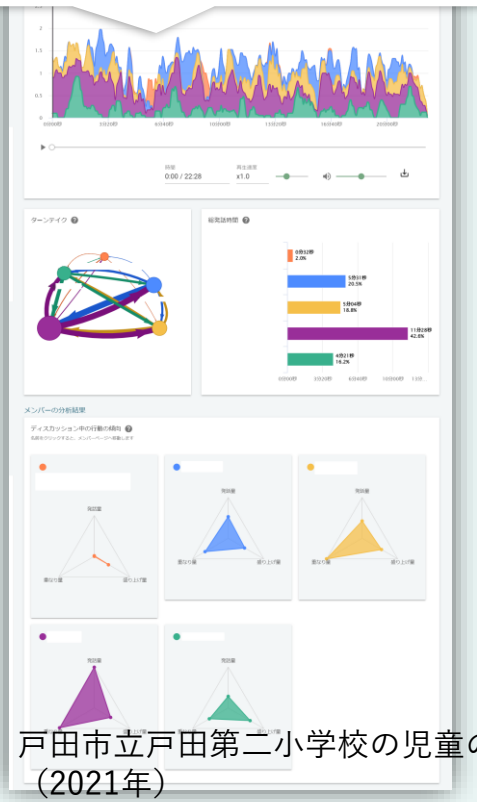
■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

先生にとっての活用効果

これまでは分からなかった児童・生徒の特徴を発見し、声かけや活躍の場の設定に活かせるようになった

戸田市立戸田第二小学校（国語）の例

先生がいない時に積極的に発言している児童を発見

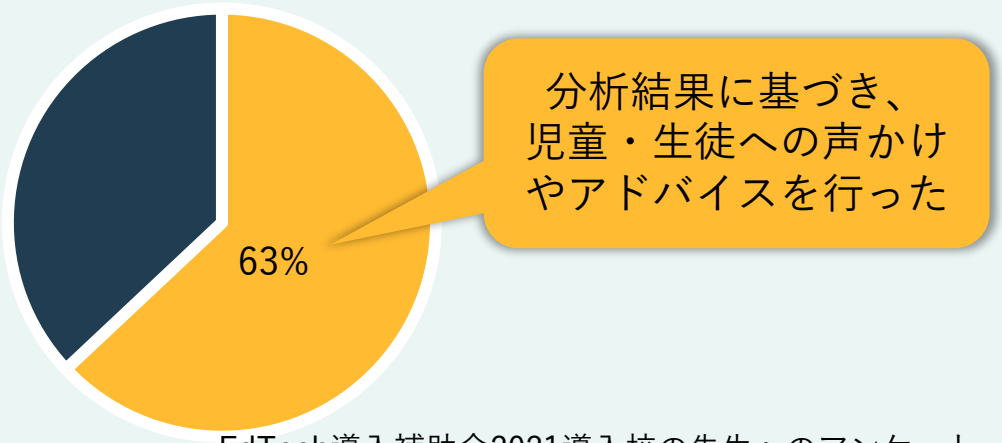


戸田市立戸田第二小学校の児童の分析結果（2021年）

学級会のリーダーになってもらったところ、活躍してくれました

戸田市立戸田第二小学校
園田達郎先生

ハイラブルの分析結果を、先生はどのように活用しましたか？



EdTech導入補助金2021導入校の先生へのアンケート
※回答者16名（ハイラブル株式会社、2022年）

クラスに複数グループがあると教員の目が行き届かないところがあるが、タマゴがあることで下手なことは言えないと緊張感がうまれるようで脱線しすぎず、それでいて打ち解けた感覚で話をするようになる。
（先生のアンケート自由回答より）

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

学校にとっての活用効果

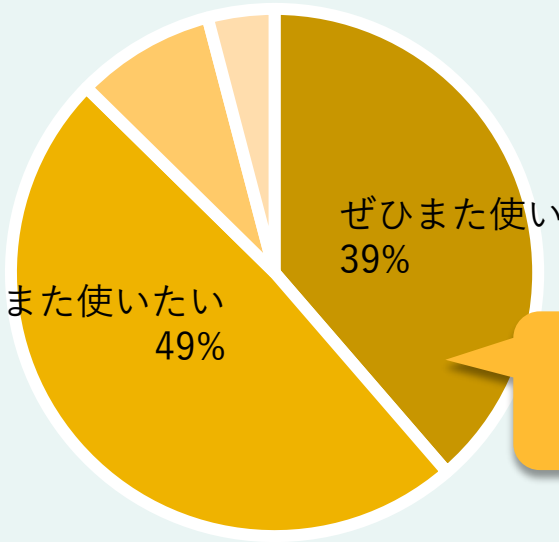
コロナ禍に対応して、オンライン教育の特長を活かしたアクティブ・ラーニング型の話し合いを継続できるようになった

東京学芸大学附属小金井中学校（理科）の例

対面／Web会議をコロナの状況によって使い分けながら、同じ生徒を継続して分析できた

東京学芸大学附属小金井中学校の生徒の分析結果(2021年)

ハイラブルをまた使いたいと思いますか？



約90%の生徒が継続利用を希望

EdTech導入補助金2021導入校の生徒へのアンケート
※回答者269名（ハイラブル株式会社、2022年）

とても使いやすくて授業の復習が楽でありがたいです！
（生徒のアンケート自由回答より）

ハイラブルの話し合い見える化で可能になることは？

話し合いの質が変わる

思考は深いがあまり発言しない生徒が、分析結果を見て「もっと発言しないと」と気づき、**班の議論に影響を与える**ようになることもあります。

東京学芸大学附属小金井中学校
宮村連理先生（理科）

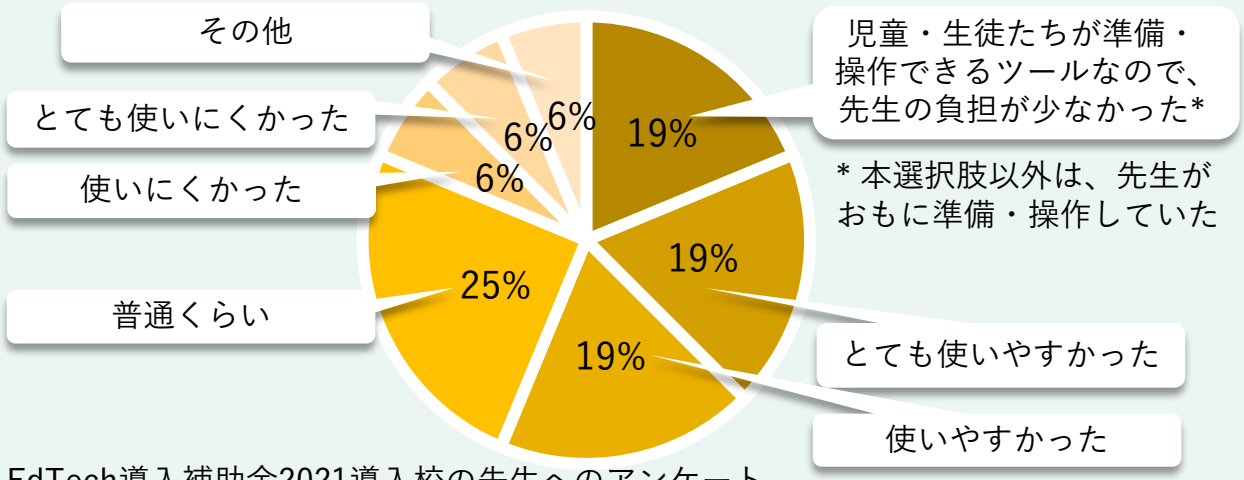
戸田市教育委員会　次長（兼）教育政策室長
佐藤尚子様

授業改善につながる

これまで把握しきれていなかった子供たちの発言をもとに、教師も授業を振り返ることができ、**授業改善につながる**と考えています。

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

課題① 先生の使いやすさの評価が分かれた



EdTech導入補助金2021導入校の先生へのアンケート
※回答者16名（ハイラブル株式会社、2022年）

改善策①

- 使い方や活用例を共有できるユーザーコミュニティを作る
- 操作方法を分かりやすく伝えるようなUIの改善を行う

課題② 学校のセキュリティ設定

- 導入前に実施したネットワーク環境調査では明らかにならなかったセキュリティ設定があり、本来の十分なユーザー体験を提供できなかった学校があった。

改善策②

- 導入前の調査項目をバージョンアップする

■ 会社概要

社名の由来

カエルのように上手に雑音の中から
目的の音を聞き分ける技術を実現する

ニホンアマガエルの学名
Hyla japonica

会社概要

会社名	ハイラブル株式会社 (Hylable Inc.)
経営陣	代表取締役　水本武志　博士(情報学) 取締役　　菅原哲也　修士(工学)
設立	2016年11月21日
事業内容	メディア信号処理やコミュニケーションに関する商品やサービスの企画・製品・運用・販売・情報提供・コンサルティング等
本店	〒170-0005　東京都豊島区南大塚二丁目26番12号 鈴音ビル2階 203号室
資本金	2,350万円
顧問	弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 税理士法人 市川会計
従業員数	7人

お問い合わせ

◆お問い合わせフォーム　https://www.hylable.com/contact/
◆メール　contact@hylable.com

■ EdTech導入補助金2021活用による成果の分析と考察

EdTech導入補助金2021によって可能になると考えること

- **学校：授業に組み込んだ長期のトライアルが可能に**
  - 通常のトライアルでは、ツールを使えるかどうかの確認で終わってしまうこともある。EdTech導入補助金によって長期トライアルが利用が可能になったので、学校は実際の授業に組み込んだ上でツールのメリットや課題を発見できる。
  - 実際にツールを利用した経験があるため、予算の計上がしやすくなると期待できる。

- **事業者：予算の限られた学校にも利用の機会が広がりユーザー層を増やすことが可能に**
  - 利用環境が多様になるので、学校で利用してもらうための課題を発見できる。ユーザー体験改善のためのデータを得ることができる。

Hylable